

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月23日(金)
主管学校名	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
PTA会長名	石倉 博子

実施概要	主管校	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
	交流校	滋賀大学教育学部附属小学校 PTA会長 面條 航
	実施活動名	附小附特交流会
	実施日時	平成29年7月6日(木)、7月10日(月)、11月6日(月)、平成30年2月23日(金)
	実施場所	附属特別支援学校プレイルーム、プール、プレイコート、小学校
	実施目的	○一緒に活動し、楽しい時間を過ごす。○障害理解を深める。 ○交流をきっかけにして同年代の人に積極的に関わっていかうとする意欲や態度を培う。
	実施内容	第1回・第2回「いっしょに遊ぼう」プール(雨天はプレイルーム)にて 第3回「いっしょに遊ぼう」プレイコートにて、第4回「遊びコーナー」小学校体育館にて
	実施方法	お互いの学校を訪問し、特別支援学校の児童を交えたグループに分かれ、小学生が考えてきてくれたお楽しみの活動を一緒に楽しむ。
参加人数	附属特別支援学校小学部児童14名、附属小学校4年生3クラス 計104名	

報告事項	内容	<p>事前学習として、附属小学校では総合学習の一環で、本校教員が障害理解にかかわる出前授業を1時間、交流準備に1時間取り組み、メッセージカードを作成した。本校児童は安心して交流に取り組めるよう交流前には見通しをもてるよう丁寧に事前学習を行った。</p> <p>第1回目 平成29年7月6日(木)「一緒に遊ぼう」 第2回目 平成29年7月10日(月)「一緒に遊ぼう」 附属小学校4年い組(1回目)ろ組(2回目)の児童が本校を訪問。本校プールにて交流。両校の代表があいさつをした後、小グループ毎に別れて自己紹介を行う。その後、小学校児童が考えてくれていた遊びをプールでグループに分かれて行う。</p> <p>第3回目 平成29年11月6日(月)「一緒に遊ぼう」 附属小学校4年は組の児童が本校を訪問。本校プレイルームやプレイコートにて交流。両校代表のあいさつの後、小学校児童が考えてくれた遊びをペアになって行う。</p> <p>第4回目 平成30年2月23日(金) 本校児童がスクールバスを利用し、附属小学校を訪問。附属小学校の4年生全員が催す「おまつりひろば」に本校児童がお客さん役で参加。出店のブースを回る際には、ペア児童と一緒に回り交流を深めた。</p>
	結果	<p>本校児童と小学校児童と一緒に活動し、お互いを知り合うことのできるよい交流ができた。走り回る児童にどうかかわろうか、自分たちのように話し言葉でコミュニケーションがしにくい児童にどう伝えようか、自分たちで相談しながら交流をすすめている小学校児童の様子があつた。本校児童にとっても、同世代の大勢の友達と一緒に集団の渦に乗りながら楽しく遊んだり、普段教員に言われると応じないことでも、ペアの児童のかかわりを受け入れていたり等いつもと違う様子もみられた。この4回の実際の交流を通してより深くお互いを知り合うことができた。3回目の交流まで、毎回小学校児童が本校児童一人一人にプレゼントを作ってくれ、本校児童は大変喜んでた。4回目の最後の交流では、本校児童から小学校児童に手紙を送り、1年間のお礼を伝えた。</p>
	所感	<p>本交流は、長年続いている交流であるので、本校児童にとっては、毎年ある交流で児童自身が見通しをもって安心して取り組める行事として定着していると感じる。小学校4年生児童にとっては、4年生になったら特別支援学校と交流することが定着しており、先輩児童からいろいろと話を聞いて自分たちの活動を事前学習で計画してくれている。また、交流当日がよき日となるために、事前にどれだけ両校の教員同士が交流するかということが大切だということ进行交流行事の準備をしていくと感じる。これからは事前に丁寧なやりとりをしながら行事を両校で作上げていきたい。</p>

添付書類



みんがうた
十のわな
だのわな
まのわな
たのわな
あまのわな
うまのわな
きまのわな
こまのわな
ひまのわな
ふまのわな
なまのわな
にまのわな
ひまのわな
ふまのわな
なまのわな
にまのわな
ひまのわな
ふまのわな
なまのわな
にまのわな

B付

Whiteboard with faint text and a grid.

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成30年2月20日(火)
学校名	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
学年	1年~6年

附属小学校より
振り返りの感想文より

今日の学習をふり返って... 最初、特別しえん学校に行った時は
すぐきんちょうしていたけど、遊び始めてみると、とても
楽しくて、最後は「あと、2時間くらい遊びたいな」と思える
ほど、ほぐたちのじゅんびがうまくいって、おたがい楽しくすごせ
た時間でした。めあて通り、特別しえん学校の子の表い
や金持ちを見たり、意見を聞いたりして、遊びまわったり
かえながらたりして、楽しい時間をすごすための工夫もできました。

今日の学習をふり返って... (はじめは少しだけドキドキして
いたけれど、いっしょに遊んでみると、すぐに
なれて、楽しく遊べました。最後に「どうしよ
う?」と思って考えたりしました。でも、よろこびで
もらえてよかったです。)

今日の学習をふり返って... 今日学んだことは、色々なしるしをま
いでも、人は人でしるしをまいて、ていねい強く思いました。
少しちがうところがあっても、無くて人も人は人で同じとい
うことをよく強く思いました。

活動に参加しての感想

本校児童より
一緒に遊んで楽しかった気持ちを表現した手紙より



カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年2月20日(火)

学校名 滋賀大学教育学部附属特別支援学校

附属小学校との交流は、息子にとって、とても楽しくワクワクした時間だったと思います。そして、お互いの生徒たちも、いい経験になったのではないかなと思います。息子は地域との関わりも少なく、同年代の健全児たちと遊ぶ機会もほとんどありません。みんなと一緒に遊ぶことが大好きな息子にとっては嬉しい時間だったと思います。これからもこのような交流の機会が続くといいなと思います。

附属小学校のお友達と年4回交流もして、我が子も毎回楽しく過ごしている様です。一緒にプールに入ったり、お手紙をもらったり、我が子も家に帰ってから、うれしそうに私達に見せてくれます。

附属小のお友達との交流は、毎回とても楽しみにしています。交流の日は、テンションが高く、楽しんでグループのお友達と活動している様子です。息子にとって、普段では出来ない経験、刺激になるようで、親として、とても有り難いと思っています。お互いの学校行事がある中で、予定を合わせながらも大変な苦労があると思いが、これからも交流活動が続く事を願っています。

附属小学校の交流活動があることで、同じくらいの年の子供と接することができるので、大切な時間だと思っています。特別支援学校は小人数という点もあって、本人はおちついて通えていますが、交流が数回あることで、少しずついろんな人とかがかわり、それを楽しいと思えるようになっていくこと、卒業して社会に出ていくことのステップの一つと思っています。